

4. 介護ロボットおよび介護支援機器・福祉用具の使用法（手順チェックリスト）

4) 自立支援型移乗補助具

(2) 自立支援型移乗補助具の使用手順および注意事項

① ラ・クリップの使用手順（チェックリスト）

④ 左片麻痺の利用者のベッド（起き上がり→端座位）から車いすへの移乗（介助者1名）

	手順	留意点や手順のねらい
使用前の点検	① 使用物品（ベッド、車いすのブレーキ）の点検をしておく。ラ・クリップの点検（ネジがゆるんでいないか、パイプに傷などはないか）。	
介助開始時のコミュニケーション	② 利用者にあいさつをする。 ③ これから行うことについての説明を行い、同意を得る。 ④ 利用者の体調を確認する。	
起き上がりの準備	⑤ ベッドサイド（右側下方）に車いすを準備し、車いすよりベッドが少し高くなるよう高さ調整を行って置く。 ⑥ ラ・クリップはベッドサイド（腸骨のあたり）に準備する。ラ・クリップの位置と、パイプの位置の確認をする。車いすのフットサポートは上げておく。	ベッドの高さは40cm程度に調整し、ベッドのサイドにラ・クリップが設置できるよう、車いすをベッドから少し離す。 ラ・クリップの位置の確認 （真上から見て、ラ・クリップのベースがベッドの下に隠れるよう挿入する。ベースの端がベッドから出ないように設置する） パイプの位置の確認 （利用者が臥床しているとき、利用者の腰にパイプが位置し、手を伸ばせばパイプが手に届く位置）。 車いすは起き上がり時に邪魔にならない位置に置く
起き上がりから座位	⑦ 利用者は、体を捻じりながら横へ傾けて、右手（利き手）でラ・クリップの手すりパイプの上方を掴む。右下肢を左下肢の下に入れて、両下肢をベッドサイドの右に寄せる。両下肢をベッドから降ろしながら、上半身をパイプに引き寄せて起き上がり座位姿勢をとる。介助者は、両下肢が浮き上がらないように、両手で膝下を押さえる。	起き上がる際にパイプに頭がぶつからないように、ラ・クリップの位置を調整する。 体を引き寄せる際に足を降ろしながら行うとスムーズに行える。
座位から立ち上がり	⑧ 座位姿勢が安定したら、パイプをもったまま、右臀部を前に出して浅く座る。介助者は、腰部を支えながら左臀部を前に出す介助をする。上方のパイプを持って下のパイプに肘を押し付ける様に安定させる。この時、掴んだ手とパイプの角度が90度になるようにする。 ⑨ 立ち上がった後、車いすに座れるようにベッドの上方に身体の向きを変える。向きを変えるときは、左手でパイプをつかんだままで上体をパイプにもたれ、左の踵の向きを変える。不安定な場合は、介助者が腰部を支えて介助する。	浅く座りすぎて落ちないように介助者は注意する。ラ・クリップは、パイプの上方を掴み一点支え、肘で一点押さえるように支える。さらに一点、反対の手で、先端のパイプの上を掴む。この三点の支持を確実にし、身体を引き上げる。 三点の支持があることにより、自力で立ち上がることができる。 立ち上がった後、上体をパイプにもたれかける時、安定しないようであれば、右手のパイプをつかんでいる位置を変える。
移乗	⑩ 身体の向きを変えたら、介助者は車いすを利用者の後方に近づけておく。パイプをつかんだまま、車いすの座面に座る。介助者は、利用者の腰部を支えて、ゆっくり座れるように介助する。 ⑪ 利用者に車いすに深く座るよう声かけをし、座位の安定を確認する。 ⑫ 利用者の足をフットサポートに乗せてもらう。 ⑬ 利用者の姿勢や衣服にゆがみ、ひねりがないか確認する。 ⑭ 利用者自身に苦痛や体調の悪化がないか確認する。	ゆっくり移動するよう声かけし、ゆっくり移乗してもらう。この時、一気に動作しないよう、利用者が車いすから転落しないよう気を付ける。 利用者の身体が前方に滑り落ちないか、移動が苦痛でないか、身体の動きや呼吸等を観察しながら見守る。 途中で疲労等が見られたら、利用者に確認する。

